

図画工作科

28名参加

講師に、日本画家で日本藝術院会員の福王寺一彦先生と、香川県小学校教育研究会図画工作部会の元部会長の湖崎眞二先生をお招きしました。福王寺先生からは、ご自身の作品に込められた思いや、感受性豊かな子供時代において感動し心が動かされる経験を積む大切さ等をお話しいただきました。湖崎先生からは、具体例を基に授業づくりのポイントや教師の役割等を詳しく教えていただきました。



新潟県
小学校教諭

子供が主体的に作品づくりをするには、想像力の広がりや技能のよさが分かる資料を提示することが大切だと分かりました。図工においても、様々な経験と結び付けることで学びがより深まっていくことが分かりました。

家庭科

25名参加

学習指導要領に基づいた手縫いやミシン縫いの教材の工夫について提案しました。手縫いの指導については、練習用布と合わせて使いながら、繰り返し練習して技能を習得できるフェルト教材を提案しました。ミシン縫いの指導では、5年生と6年生それぞれの題材で扱うべき技能の段階に合った製作物について紹介しました。少ない材料で簡単に製作できる小物を、実際に作っている様子なども紹介しました。



富山県
小学校教諭

家庭科の玉留め・玉結びを楽しく練習する教材が参考になりました。学習指導要領に基づいた被服実習の系統性がよく分かりました。実演を交えて説明してくれたので、授業のイメージをもちやすかったです。

外国語科

25名参加

英語の表現を、楽しみながら習得できる活動や、英語への気付きを促す板書の工夫等を紹介しました。単元の前半に設定すればよい「聞くこと（インプット）」中心のゲームと、単元の後半で設定すればよい「話すこと・書くこと（アウトプット）」中心のゲームを紹介しました。授業での活用の仕方をイメージしやすいように、実際に、チャットや音声を使用して体験していただきながら提案しました。



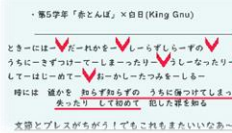
広島県
小学校教諭

実際にゲームをしながら参加できて大変楽しかったです。チャットを使って質問もでき、子供たちが楽しみつつも、学ぶべき内容を意識した活動の設定についてよく分かりました。授業で生かしたいと思います。

音楽科

25名参加

音楽科の授業に J-POP を取り入れることで子供の意欲を高めつつ、生活の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する提案をしました。また、実際に参加者の方々と一緒に J-POP の曲を視聴し、なぜその曲がおもしろいと感じるのかを分析しました。今後は、歌唱・器楽等の表現活動での取り入れ方や、一人1台 PC の音楽科での活用についても研究を深めていきたいと思っています。



長野県
小学校教諭

実践事例がたくさん盛り込まれていて、次の授業から活用できそうな内容ばかりでした。「J-POPを取り入れたいけれども難しい」と思っていたので、まずは鑑賞の題材から挑戦してみたいと思います。

体育科

28名参加

全ての子供が「できた」そして「もっとしたい」と思えるように簡易化した教材や単元構成の工夫について提案しました。その中で、子供の実態把握を丁寧に行う大切さを解説しました。また、低学年「シュートゲーム」、中学年「タグラグビー」、高学年「セストボール」を実際に行いながら、子供が熱中できるように教師がどのような言葉かけをすればよいのかを解説しました。



静岡県
小学校教諭

教材教具や単元構成の工夫などが大変参考になりました。体育に苦手意識のある子供が重要な役割を担い、ゲームに参加できるようにする工夫がたくさん盛り込まれていて、授業に生かしたいと思いました。